２１．北橋　健治氏（前北九州市長）

「単に継承発展ではなく、環境未来都市として強めるべきは強め、変えるべきは変える必要」

北橋　健治（きたはし　けんじ）
東京大学法学部卒業。
33 歳で衆議院初当選。当選 6 回を数える。
民社党大蔵部会長、大蔵政務次官、衆議院環境委員長などを歴任。
2007 年 2 月より北九州市長を 4 期務め、2023 年 2 月退任。

「国際関係の大きな変化に留意」

前のビジョン（「元気発進！北九州」プラン）を策定した時の方向性は議会の承認を受けた政策ビジョンですが、この間、大きな変化もありました。

少子高齢化への対応は、これまでも国、自治体が鋭意取り組んできましたが、今や、量的な変化からシリアスな質的･構造的な変化になってきつつあり、また、国際情勢の著しい不安定化、SNS の進展には留意が必要です。

北九州市が高く評価されているのは、環境政策、生活インフラの海外移転の実績です。日本の魅力を海外に実感してもらうためには、生活に身近なインフラ整備での支援が効果的でもあります。国としても平和外交の戦略として位置付け、先進自治体と連携して発展させてほしいです。市民が気軽に SNS を学習する機会や自治会への支援を増やしてほしい。

「良い仕事をするには良い環境が必要」

当面、我が国の少子化傾向が続くとすれば、日本は、少子化対策の強化と合わせ、労働力の確保に迫られます。日本経済の発展には、優秀な外国人労働力も必要で、留学生や外国人技術者が住みやすい都市環境が課題です。生活しやすい北九州市では、外国人が、良い環境の中で勉強や仕事ができるでしょう。

市は、空港の滑走路延長、洋上風力発電などビッグプロジェクトの推進に全力で取り組んできましたが、産業活性化にともない労働力の確保も課題です。北九州市が数多くの海外研修生を招き、環境技術を移転したことは、中央の官僚も国際的にも高く評価されています。環境を視点に、中長期的に優秀な外国人人材を確保する取り組みを期待しています。

「若者の働く/遊ぶニーズをとらえる」

10 代（高校 1 、2 年）の人たちに将来どんな仕事に就きたいかなど、調査を継続してほしい。それが IT 系なのか、製造業なのか、若者は何をめざすのか、どんな街になってほしいのか。IT 系を希望する多くの青年の流出を防ぐため、市は IBM など企業誘致に取り組んできました。若者の間では、遊ぶところが少ない、という意見もあるようです。では、どんな遊び場が良いのか、リサーチして整備できれば、観光振興につながります。市の審議会に中高大学生、進路指導の教員の代表に入ってもらえないでしょうか。

「少子化を踏まえた子育て世帯サポートを」

子育て支援を重点目標に取り組んできましたが、市内の出生数が 6 千人台になったことは衝撃でした。結婚すると、多くの女性に家事の

負担がかかり、子どもが生まれると大変です。国と連携した異次元の子育て支援政策の実行、パパシエ等の父親の育児参加、子育て中の親に対する職場、経営者の意識改革は待ったなしです。審議会に子育て中の親が複数入り、切実な声をふまえて対応策を再構築することを期待しています。

「スローガンを掲げ、推進力に」

在職中の「子育て支援日本一」の公約は、自分自身へのプレッシャーにもなりましたが、財政難を言い訳材料にせず、市民世論を背に受け、半歩でも匍匐でもいいから前進しようと職員にはっぱをかけました。

高い目標、スローガンを掲げると、関係者からときに厳しい批判も受けますが、組織として目標に向かう原動力にもなります。市民みんなで参加するようなマラソン等のイベントや子育て日本一のような大きなスローガンについては継続を願っています。

「健康寿命を延ばす運動を全世代に」

日本全体が高齢者３割に達し、他都市と比べて健康寿命が必ずしも長くないのはなぜか、一層の市民啓発が必要です。健康寿命を延ばすスポーツや減塩の取組を、ヘルスメイトの皆さん達と一緒に、全世代でやりましょう。あらためて自治会のコミュニケーションの大切さを感じます。

味付けは料理を通じて子や孫に伝えられます。祖父母の世代は汗を一杯かく労働が多く、多めの塩分が必要でしたが、労働環境は改善されてきました。まちぐるみで健康寿命を延ばす取組が重要です。

「負のイメージを払拭する」

防犯・暴力追放について。都市の成長には、負のイメージを払拭することが不可欠です。物騒な街には企業の投資や観光客の足が止まってしまいます。暴力追放とあわせて、青少年非行の防止、更生も重要です。刑法犯認知件数は、都市別に毎年公表されます。暴力団と対峙して、警察と市民が一丸となって成果を上げてきた本市が、日本で最も犯罪の少ないまちになるよう引き続き前進しましょう。

「財政支出に優先順位をつける」

本市は、財政的に余裕があるわけではなく、行財政改革は避けて通れません。公共投資の大きな借金返済が財政悪化につながっています。一律に減らす無定見な歳出カット策では、多くの市民の理解が得られません。

例えば、公共投資。就任時、財政悪化のためやむをえず総額は削減しましたが、地場企業の仕事の確保に努めました。地場企業の得意な生活関連の公共事業（学校、生活道路）は２割台だったのを４割に上げるなど、公共事業の中身を見直し、大型から市民生活密着型へシフトさせてきました。

今後は、子育て・教育、高齢者福祉、企業投資拡大などの重点項目に加え、文化スポーツにも力を入れることを期待しています。

「北九州市が持つ魅力のさらなる向上を」

（元北九州市長の）谷さんの時から一貫して挑戦し、大きな成果を上げてきたのは「環境」です。ようやく世界が北九州市に追い付いてきたのです。何十年も市民を挙げて取り組んできた環境未来都市の創造を、これからも市民力でまっしぐらに進んでいくことを期待しています。

北九州市の魅力は、「暮しやすさ」でしょう。一世紀以上にわたり、勤勉な市民が政治、行政を動かし実現してきた歴史を誇らしく思います。今、安全な都市に変貌し、企業誘致は着実に進み始めています。山と海が近く夜景が綺麗、美味しい食べ物、理工系の人材、手頃な地価、文化など地域資源の磨き上げで、郷土のさらなる繁栄を願ってやみません。